

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500052		
法人名	株式会社グレートホーム		
事業所名(ユニット名)	1階ユニット		
所在地	和歌山県有田市糸我町西43-3		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JijiyosyoCd=3091500052-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長く入居され、高齢になられた利用者様も多くなってきたので、訪問看護ステーションとの新たな契約を行い、利用者様の健康サポートに力をいれています。医療との連携により、みとりもさせて頂くようになりまし。又、新型コロナウイルス感染症予防の為、ご家族との自由な面会ができておりませんが、今回、ビデオ通話なども取り入れ、ご本人と家族様のつながりがより充実したものになるよう、計画しております。前回からの課題である、職員の研修体制としては、パソコンにカメラ設置を導入して、リモートでの研修がうけられるように整備致します。(本年10月中旬に設置予定)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は西側・南側にみかん山がある閑静な環境にあり、入居者がゆったりとした雰囲気の中で過ごすことができる。居心地の良い空間づくりを意識し、入居者のみならず職員間においてもアットホームな関係性を重視して日々のケアにつなげている。コロナ禍で外出や集団活動が十分に行えない中、感染状況や人込みを避けることを考慮しながら外出の機会を作り気分転換を図るなど、入居者に寄り添ったケアに重点が置かれ、面会についても一定の距離を保つなど工夫しながら家族と会えるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共有理念である「グループでつくる あったかホーム いつも隣にともがいる がんばる私とあなたの心」を常に心がけ、単に言葉での標語だけではなく、日々の業務に活かせるよう取り組んでいます。具体的には標語はホーム内のスタッフが見える位置に掲示しており、地域の散策などもしています。	法人理念と共に職員が考案した介護理念をユニット入り口に掲示している。日々の会話も、職員の私語も含み明るく楽しく過ごせるよう管理者は工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元、無人販売店舗への買い物や散歩に出掛け、地域の行事などにも参加し地域の方との交流を持ち、顔なじみとなれるよう努力しています。主に秋祭りなどは、自治会や老人会などを含めた地域の方々との相互交流が図れていましたが、新型コロナ流行以後、交流は減っています。	コロナ禍で外出支援が困難な中でも、人込みを避けながら近隣へ出掛けるなどの支援が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて事例を発表したり、小学校の体験学習の受け入れを行い、認知症の人の理解や支援の方法を伝えていましたが、新型コロナ流行以後できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からは行事や利用者の現状報告をし、参加者からは評価や助言を貰っています。又、認知症への方の理解が得られるような場としていましたが、新型コロナ流行以後できていない。	コロナ禍以前は、老人会会長や地区会長・民生委員・市役所職員がメンバーとなり、救命救急対応や認知症等についての話し合いを行っていたが、現在は、新型コロナ感染防止のため、昨年初旬から開催できていない。	書面での意見聴取やリモート機能を駆使するなどの工夫で、定期的に運営推進会議が開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や町の介護課担当者・包括担当者から空室状況の問い合わせを貰ったり、事業所からは実情報告や相談を持ちかけるなど、情報共有を図り連携を深めるように努めています。	近隣の一市三町より適宜入所相談を受けたり、市町村に向けて広報紙を配布するなど、関係性が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員が内部研修や外部研修を通じ、言葉の拘束や薬の抑制などを含む身体拘束の正しい理解に努めています。又、日中玄関は施錠をせず、自由に出入りが出来る環境を作っています。	日中は、玄関をはじめユニット入り口のドアも施錠しない取り組みを行っている。窓に足をかけるなど、生命に影響のある危険行為がある場合には、家族に説明し承諾を得たうえで施錠する対応を行った。	内部・外部研修についての十分な実施記録が確認できなかったため、今後は、身体拘束に関する研修を定期的に行い、第三者が見ても分かりやすい記録作成を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やミーティング内での関連法などの研修を行い学ぶ機会を設け、知識や意識向上に繋げていましたが、新型コロナ流行以後できていない。今までの研修報告書等に、再度目を通すよう指示し、世の中で起きている事例を参考にして学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	狭いミーティングルームでの会議は新型コロナウイルスの感染予防からも好ましくない為、職員そろっての研修はできていませんが、新しく入居された方が直面している問題点、主に権利擁護に関する実例を学び、情報の共有をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書に基づいて十分な説明を行い、理解し納得・同意の上で契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しています。家族来訪時、直接入居者の状況報告をし家族から要望や意見をお聞きしています。入居者からは日々の関わりの中で要望や意見を聞きだせるよう心掛け、それらをすぐに現場で活かせるよう、階ごとの申し送りノートに記入しケアに反映しています。	入居者・家族の意見は日々の様子観察や連絡等を通じて把握し、運営に反映するよう取り組まれている。月々の支払いについて口座引き落としの要望はあるが、入居者との関りを切らさないよう現金払いか振り込みにして疎遠にならないよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの人数減少及び、新型コロナ流行に伴いミーティングが出来ない状況。各階に申し送りノートを設置し提案・意見・情報の共有するためのツールとして使っています。	企画書等を提出するまでもなく、職員が良いと思ったことは積極的に日々のケアに取り入れることが自然な形で行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与で職員個々の努力や実績を反映させたり、職員の希望休暇や休憩場所などの環境設備など、柔軟な対応に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のみならず、外部研修参加の機会も設けていますが、新型コロナ流行の事態を踏まえ外部研修の参加については、慎重に検討している。しかしながら、職員個人のスキルや資格取得に関する研修には資料などを取り寄せ、積極的に取得できるように努めています。取得に必要な金銭の補助体制も考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加盟し、交流の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、入院先やご自宅を訪問し、本人の思い等をじっくり聞くようにし、出来る限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時から、家族の思いなどを十分に聞き取るようにし、出来る限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞き取りながら、入居に対する迷いや、ご本人の状態がまだ居宅で過ごせるような場合などが感じられた時には、現状で利用可能なサービスなどの情報提供や連絡調整などを行なうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が出来る事はして頂き、出来ない事をさりげなく支援し、暮らしを共にする者同士であるという姿勢を常に意識しています。ご本人からの「世話になるの」などの言葉が聞かれた時には、「お互い様やで・私も○○さんのお世話になってるよ」などの会話が聞かれます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月次報告書以外にも、電話や来訪時などに利用者の状況報告をし、職員は家族様の代わりには、なれないけれど、ご家族の次に信頼されるような間柄になりたい事を常に伝え、信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談・協力し合い、行きつけの美容院、飲食店などの場所や友人知人との面会や外出などで、これまで大切にしてきた人や場所との関係継続を支援していますが、新型コロナ流行につき面会・外出・外泊等を一時中止している。	コロナ禍で外出支援が十分に行えないながらも、入居者が懐かしめる話題を通じ、その関係性が切れないよう配慮されている。コロナ禍で中断されていた家族との面会は距離を保ちながら再開しつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者の表情や雰囲気等を感じ取るよう意識し、状況に応じた対応を行ないながら円滑な関係が築けるように働きかけています。居心地の良い環境作りも心掛けており、女性のグループでは塗り絵が人気で、毎月、塗り絵カレンダーを作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居生活をしてこられた方のご家族とは、退去後も折にふれ、交流はあります。例としてお亡くなりになられた方のご命日にお参りさせて頂く事もあります。又、当施設から病院に移られた方などは、その病院関係者から現況をお伝え頂く場合もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、利用者の希望や意向の把握に努めています。具体的には、こちらから食べたい物はないか、欲しい物はないか、困っている事はないか、などの問いかげや、疎通困難な場合は、家族から聞き取りを行い、生活歴から本人本位に検討しています。	自身の意向をはっきりと表現できる入居者は少なくなっているが、日々の会話や誕生月の食事メニュー等をきっかけにして意向の把握に努め、本人の希望に沿うよう配慮がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人の生い立ちから、お元気な時の生活歴などはご家族から。介護サービスの利用状況や入院中の様子については個々の担当者より情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中、利用者の現状把握に努め、些細な変化や新たな発見などの気付きがあれば、職員間の申し送りで情報共有しています。申し送りノートと8月より導入したアイパッドを活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認の上、健康面・精神面で必要な場合はかかりつけ医などに状況報告・相談し、それらを職員間で情報共有・話し合いを持ち、介護計画に繋げています。又、計画作成以降も状況が変化した場合に内容にとらわれず、柔軟な対応を心がけています。	日頃の生活状況やミーティング・連絡ノートへの記載内容等を確認しながら、介護計画書が作成されている。	入居者や家族の他に、医療・介護関係者等が出席するケア会議を開催することが望ましく、計画内容に基づいて、より一層質の高いケアにつなげることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録記入事項で、必要な事柄は職員間での申し送りノート、アイパッドなどを活用し、情報共有・話し合い介護計画に繋げています。特にアイパッドの申し送り欄やケース記録、不穏・問題行動として特別な欄も活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独型であるため、対応困難なケースが発生した場合、自治体や他事業所との連携の上、要望があれば支援できます。(例:食事が摂れなくなった利用者への対応等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会・老人会・公民館・派出所などの地域にある資源との協力体制は整備しており、必要に応じて連携しやすい状況にあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族の要望を確認し、受診の支援をしています。家族・主治医・事業所は報告・連絡・相談で連携を取りながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医については、希望により入所前の担当医を継続することも、事業所の協力医に変更することもできる。通院は職員が付き添っている。協力医には時間や曜日を問わず連絡を取ることができる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子変化等の状況報告を迅速に行い指示を頂くなど、協力医療機関との連携は密に図られています。又、本年10月より訪問看護ステーションとの契約により、看護職との協働も図れるようになりました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関、及び近隣病院の医療連携室との連携は図れているので、情報交換や相談など円滑に行えます。入院時にはその直前1か月間のバイタル表や経過記録など、ケアマネのアセスメント表と共に提出しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期において可能なケア・対応をご家族には説明しています。入居後も状況に応じて家族との話し合いを密に行い、主治医や協力機関を含めた対応などの方針を個々のケースに応じて決定し、関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。訪問看護ステーションとの契約により、見取り体制もより充実させることができました。	訪問看護事業所と連携した看取り体制が整ってからは、入居時に事業所での看取り対応の説明を行っている。希望があればその都度話し合いの上、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備、緊急連絡体制を整えています。契約した訪問看護ステーションは緊急時の対応にも応じてくれ、職員の心肺蘇生講習・AED装置の設置及び訓練等を通じ、いつ時でも実践できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対応マニュアル整備に加え、地域全体で行われる災害・津波等の避難訓練などに利用者と共に参加しています。管理者・ケアマネは実際に地域の避難誘導標識にそった経路を歩き、避難の際の問題点などを話し合っています。又、電気・水道などのライフラインが止まった時を想定した排泄・食事などの訓練も実施しています。	災害訓練は行えなかったが、停電時のカセットコンロ、3日分以上の食糧備蓄があり、非常時のトイレ対策として排泄物吸収用のシートでの対応を実践している。水害時の垂直避難も想定し、停電の際に移動困難な車いす入居者の居室を2階ユニットに変更することも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、入社時研修により人格尊重とプライバシーの重要性の意識づけを図り、守秘義務についての誓約書を提出してもらっています。利用者への言葉使いや、声掛けにおいて十分注意して対応しています。	呼びかけは基本名字で「さん」付けで行い、入居者によっては下の名前を用いても尊厳ある関わりに努めている。また、プライバシーに配慮し、SNSを介した写真の送受信による個人情報漏洩にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者との関わりを大切にし、利用者が思いや希望を表しやすい関係性を築くようにしています。又、利用者の能力に応じた自己決定し易いような声かけを基本としています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、決して無理強いすることなく、利用者一人ひとりのペースに合わせて見守りながら自由に過ごして頂き、併せて共に過ごす時間も大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧等は本人の希望を尊重し、必要に応じて化粧をさせて頂いたり、個々の要望にそった対応をし、その人らしい身嗜みやお洒落が出来るよう支援しています。具体的には着替える時にどれを着たいかなど、本人の希望を伺いながら決めていきます。又、2か月に1回は訪問美容により散髪、カットしてもらいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事準備の一連の作業を、共に行なっています。又、旬の食材を献立に取り入れれたり、地元の名物：なれ寿司作りを一緒にします。近頃はコロナの感染防止から外食を楽しむ機会は減りましたが、食から季節を感じて頂ける様な工夫やお弁当やハンバーガーのデリバリーを利用するなどして楽しみを増やしています。	日々の献立は、入居者の声も聞きながらその日の状況に合わせて職員が決めている。調理等の中で入居者ができることは限られてきたが、なれ寿司や早寿司を入居者と一緒に作り楽しむことができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量などのチェック表を用い、個々の状態を見ながら必要量の確保などが出来るように、1日量の把握をしています。量が分かりやすいように全員同じコップを提供させて頂き、記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で磨ける方は磨いて頂いています。磨けない方は、職員が支援しながら口腔内の清潔保持に努めています。義歯は定期的に洗浄剤を使用しています。週に1回は口腔状態を歯科衛生士がみており、簡易的ですがカルテの作成を行っています。歯科への受診が必要と判断した時には適切に受診対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などにより本人の排泄パターンの把握に努め、オムツ使用又尿意のない利用者であってもトイレに誘導、介助し排泄の自立に向けた支援をしています。又、状況を見て可能であれば、積極的に段階的なオムツ外しの支援をしています。	日中はこまめなトイレ誘導を行い自立支援に取り組んでいる。夜間は睡眠の確保を重視し、テープ止めオムツと尿とりパッドを使用するなど、一人ひとりに合わせて使い分けて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材などを献立に取り入れ、散歩や体操等の運動への働きかけも行っていきます。緩下剤の使用をするにあたり、かかりつけ医に排便状況を報告相談しながら対応を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、利用者の体調を確認した上で入浴の声掛けを行い、利用者の希望・自己決定により日中であれば利用者がいつでも入浴して頂けるように支援しています。冬至には地元の方が柚子を差し入れして下さるので、良く温まり季節の風物を楽しむことが出来ています。	一週間に一度入浴日を固定しつつ、それ以外の日は入居者の希望に合わせていつでも入浴できるよう配慮している。柚子風呂で季節を感じたり入浴剤で香りを楽しめるような工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は個々で、利用者の生活習慣に合わせて、休息や睡眠を摂れるように支援しています。居間でテレビを観て楽しむ方もおれば、ご自分の部屋に戻りテレビを観て過ごしている方もおられます。夜間眠れない方には温かい飲み物を提供したり、傍に寄り添いゆったりとした時間を過ごし、安心して気持ち良く眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別記録ファイルに服薬内容等の情報を添付、アイパッドにも記載されており、薬の変更や服用後の症状の変化及びそれに対する事項があれば、診療報告書や申し送りなどで全職員がその把握の徹底をしています。又、誤薬提供がないように今のシステムを皆で考えて実行しました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や性格などを考慮し、日々の関わりの中で得意、不得意等も見極め、家事その他の作業の役割分担を行なっています。嗜好品については毎日のおやつ提供以外にも家族さんからの差し入れや、本人たちの要望により準備させて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に家族と外出や外食・外泊が出来るように支援の協力を働き掛けていますが、新型コロナ流行につき面会・外出・外泊等を一時中止しています。今は職員と近隣の無人販売やアヒルやカモを使って稲作の栽培をしている「あひるの学校」を見に行ったりしています。	新型コロナの感染者状況・人出の多さを考慮しながらタイミングを図って、近所の無人販売所や合鴨農法の田んぼの様子を見に行くなどして、徐々に外出機会を増やすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、希望があれば同意の上、本人に管理して頂いています。そうでない場合も、事務所で預かり能力に応じた支援等(買い物時に本人に手渡す)を個々に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により家族や知人と年賀状や暑中見舞いなどのやり取りをして頂いています。電話のやり取りについても自由にして頂いています。携帯電話を所持している方も居られます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝必ず換気を行い、エアコンの調整・空気の乾燥などには常に注意を払っています。共有空間には、季節の生花・手作りカレンダー等で季節を感じられる物や生活感のある物を置き、新聞や雑誌等を用意し話題作りに活用、居心地よく過せるように工夫しています。	共用空間には、季節感を感じるすずきや彼岸花を飾ったり、入居者が作成した作品を掲示している。入居者全員が楽しく過ごせるよう、クリスマスツリーの他、季節に応じた居住空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が居心地よく過せるように、利用者間の関係性に気配りし、時には職員が間に入り円滑な関係作りをしています。又、共用空間には、独りになれたり、気の合った利用者同士で過せる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人が使用していた馴染みの家具の持ち込みや子供さん、お孫さん達からのプレゼントなどは思い思いに飾って頂いています。又、お誕生日の職員からの寄せ書きやプレゼント、自分で制作したリースなども飾ります。	自宅で使用していた馴染みのタンス等を持ち込んでいる居室もあり、室内はそれぞれの好みで整えられている。居室の扉には個々の氏名をわかりやすく大きく掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や車椅子等の移動補助器具使用の方も、移動や使用しやすい洗面台やカウンター、手すりの位置など、個々の身体機能の状態に合わせた危険防止に努めつつ自立した生活が送れるように工夫しています。		